7.環境修学旅行の取組

(1) 概要

本市では、本市の観光振興を一層推進していくため、 国内外から高い評価を得ている本市の「環境」を、新たな 観光素材とし、本市に集積している環境の施設や技術など と、観光の観点を、有効に組み合わせ「環境修学旅行」と いう本市ならではの修学旅行を平成22年度より開始しま した。

平成25年度は、九州・関西エリアから小学校・中学校・ 高等学校・大学の、合計30校1.884人が同修学旅行で 本市を訪れました。

(2) 環境修学旅行の特徴

環境修学旅行の特徴は、現在の環境問題解決の主要3 テーマである「地球温暖化防止」「資源循環」「自然共生」 を切り口に、環境関連施設や企業の見学に加え、ユニーク な体験学習やエコ弁当、エコ土産などを盛り込み、楽しみ ながら環境を学べる修学旅行です。



(3) 環境に配慮した企業の見学

本市には環境に配慮し た製品づくりを行う様々な 企業があります。工場見学 などを通して企業の環境へ の取組を学ぶことができま



TOTO



シャボン玉石けん 九州製紙

(4) 環境修学旅行のユニークな体験学習

環境修学旅行の特徴のひとつである体験学習は、本市 でユニークな環境への取組を行っている企業や大学、研究 者の方々の協力を得ながら行っています。

■産業廃棄物処分場跡地での植樹

本市では、平成20年から34年までの15年間で市内 に新たに 100 万本の緑を増やそうとする「環境首都 100 万本植樹プロジェクト」を行っています。

同プロジェクトの一環として、若松区の響灘海岸の廃 棄物処分場跡地において、市内企業によりどんぐりなどを 植樹する緑化活動が行われています。

この植樹には、カンガルーの糞と、トマトの茎や葉を 混ぜ合わせて作られた肥料が使われるという全国的にも 大変ユニークな取組が行われています。

修学旅行生は、植樹をすることにより、市のプロジェ クトに参画ができるとともに地球温暖化防止や資源循環 の大切さを学ぶことができます。





■生ごみコンポストづくり

本市は、環境国際協力にも力を入れています。

その中のひとつで、ごみ問題に悩まされている東南ア ジア諸国において、生ごみを堆肥に生まれ変わらせるコン ポストづくりを伝授している研究者がいます。

この研究者の方が直接、生ごみコンポストづくりをレ クチャーし、ごみの減量化や資源化について学びます。





(5) 今後の取組

ひとりでも多くの方に環境修学旅行を経験してもらうこ とで、本市の環境への取組が広く情報発信され、次世代 を担う子どもたちの環境意識の醸成が図られることが期 待できます。

本市に環境修学旅行で訪れた方々が、楽しみながら環 境を学んでいただけるよう、今後一層の内容の充実や受入 体制の強化を行っていきたいと考えています。

第3節環境情報の共有と発信

本市には、地域コミュニティ活動や自然環境保全活動などを通じ、様々な環境情報が蓄積され、ネットワー クづくりも進められています。環境への取組を更に進めていくためには、あらゆる主体が環境に関する多様 な情報を共有し、そこから新たな情報や行動を生み出し、発信していくための基盤づくりを進めていく必要 があります。

今後、周知方法の更なる工夫を図りながら、様々な媒体・機会を活用した情報発信に取り組むとともに、 シンポジウムやイベントで対話するなど、双方向でのコミュニケーションの促進を進めていきます。

1.北九州エコライフステージ

(1) 目的

北九州エコライフステージは、「世界の環境首都」を目 指し、毎年市民団体や事業者などで構成する実行委員会を 中心にして、エコライフの浸透を目指し様々な環境活動に 取り組むものです。

(2) 事業内容

平成14年度に開始してから、開催12年目を迎えた平 成 25 年度は、約 166 万 3 千人の市民が参画し、272 行 事を実施しました。その主な事業は以下のとおりです。

ア. シンボル事業「エコライフステージ 2013|

開催日: 平成25年10月19日(土)・20日(日)

会 場:勝山公園大芝生広場

テーマ: つなげる・つながる未来へ~わたしたちの消 費行動が未来をつくる~

内 容

- それぞれの出展のテーマに合わせて、11 のテーマ ゾーンを設置
- 環境活動に取り組む団体による有機野菜等を使った 食のコーナー、環境商品の展示・販売、リサイクルエ 作教室など、日常生活に密着し、環境に配慮したライ フスタイルを提案する出展
- マスメディアの参画によるステージイベント、番組の



シンボル事業「エコライフステージ 2013」

- CO2の削減が実感できる、環境に配慮した会場運営の 実施(デポジット制によるリターナブル食器の利用、 次世代クリーンエネルギー(水素エネルギー)による 発電、バイオディーゼル燃料による発電等)
- 小型電子機器等のリサイクル資源の回収
- ・北九州市立大学の学生の企画・運営による「エコスタ イル cafél の実施
- 東日本大震災復興支援企画の実施

1.地域・テーマ別事業(通年事業)

会 場:市内一円

内容

市民団体、企業、学校等の様々な環境活動を行ってい る団体を紹介することで、市民団体・企業間の相互交流 による環境活動の拡大、ネットワークの広がりが生まれ ました。(271 事業)

(3) 成果

北九州エコライフステージは、参加者が年々増加して おり、市民に環境の環(わ)が広がっています。

シンボル事業エコライフステージ2013 では、103団体、 15万7千人の市民が参加し、市民団体・企業・学校等との様々 な交流が行われました。また、平成25年度はエコマンスのメ インイベントとして、同時期に開催される環境イベントや国際 会議と連携し、本市の環境活動を国内外に広く発信しました。

平成21年度から実施している「エコライフステージ3 つの約束」では、ごみを出さない工夫、電気の使用を最大 限に抑えたイベント運営、フードロスゼロの推進などを行 うことで、主催者・出展者・来場者が一丸となって環境に 配慮した会場づくりに取り組みました。

(4) 今後の取組

平成 25 年度はエコマンスのメインイベントとしてフード ロス削減や3切り運動(食べ切り、水切り、使い切り)の 啓発など新しい活動に挑戦しました。この取組を今後も継 続し、さらなる環境活動の広がりを目指します。



2.世界の環境首都創造に向けた情報発信

環境首都づくりに係る取組や成果を、インターネット による環境情報ポータルサイトにより効率的に集約し、環 境情報を積極的に受発信できる交流の場を構築していま す。

■リニューアルサイト「北九州エコライフステージ」について

本市の環境情報を集結したポータルサイトのことで、市 民、NPO、企業、大学、行政まで幅広い情報提供者により、 環境に関する情報をわかりやすく発信しています。

平成25年4月にリニューアルした「北九州エコライフス テージ」は、年間アクセス数 16 万人を突破し、北九州市 の環境活動を市民に広く発信しました。今後もさらなる情 報発信力の強化に努め、市内はもちろんのこと国内外へ向 けた積極的な情報発信を目指します。

- 北九州エコライフステージの管理・運営 北九州エコライフステージ実行委員会事務局
- 外部リンク

北九州環境みらい学習システム、北九州エコタウン、環 境ミュージアム等の各 HP



北九州エコライフステージのトップページ http://www.ecolife-stage.org/

3. 低炭素社会の実現に向けた広報戦略

「低炭素社会」の実現に向けては、産・学・官・民が一 体となって取り組むことが重要です。そのためにはまず、 低炭素社会の実現に向けた意識の醸成を図るための戦略 的な広報活動が不可欠です。

本市はこれまで、マスメディアを活用した広報や、環 境情報誌による情報発信、環境関連イベントによる PR 活 動、PR 看板設置など、様々な媒体・機会を活用して情報 発信を行ってきました。

■環境マスコットキャラクターの活用について

本市の環境に関する取組や低炭素社会づくりについて、 市民に興味を持っていただき理解の促進を図っていくた め、平成23年度に環境マスコットキャラクター「ていた ん」を発表しました。

子どもたちと触れ合うイベントに着ぐるみを登場させ たり、イラストを市が作成する冊子・パンフレットやチラ シ等に掲載して、目に触れる機会を増やしていきます。

また、平成25年度には、「ていたん」のお友達として「ブ ラックていたん」を発表しました。「ていたん」が鼻と口 で「エコ」を表していることに対して、「ブラックていたん」 は鼻と口が「エゴ」になった、ちょっと自己中心的でわが ままな設定です。

エコが得意な「ていたん」と、エコが苦手な「ブラッ クていたん」を通じて、エコに関するいいこと、悪いこと 等を市民に分かりやすく伝えていきます。



「ていたん」と「ブラックていたん」





4. あらゆる主体による環境政策への参加の推進

環境問題の現状、課題、取組等に係る環境情報を誰で も容易に入手できる体制を整備し、環境行政のあらゆる過 程において、市民・NPO、事業者、行政が連携・協働し、 知恵を持ち寄り、共に考え、行動し、成果を検証するなど 環境政策への参加を一層進めます。

(1) 北九州市環境モデル都市地域推進会議

本会議は、本市の環境モデル都市に関する取組を、市 民・NPO・産業界・学術機関が一体となり、総合的かつ 効果的に進めていくことを目的としています。

また、環境モデル都市に関わる情報の発信や、事業の 推進、進捗状況の検証などを主な活動とし、約380の団 体・事業所・個人等が登録しています。

■北九州市環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業 (グリーンフロンティア助成) について

「北九州市環境モデル都市地域推進会議」に登録してい る市民団体、NPO、産業界、学術機関等の団体が実施す る環境モデル都市を推進する活動を支援するため、平成 21年度から「北九州市環境モデル都市地域推進会議登録 団体支援事業 (略称:グリーンフロンティア助成) | を 実施しています。

活動団体への支援事業により、本市の地域における環 境活動のレベルアップ及び地域全体の意識向上を図り、 低炭素社会の実現を進めることを目的としています。

平成25年度は、8団体の活動が支援の対象となりました。

(2) 北九州エコライフステージ実行委員会

本会は市民・NPO・事業者・行政等で組織され、環境 首都づくりを進めるための情報交流・情報発信及びエコ ライフの浸透を目的としています。

平成25年度シンボル事業では、「つなげる・つながる未来 へ~わたしたちの消費行動が未来をつくる~| をテーマに、 持続可能な消費行動について来場者、出展者がともに考え、 取り組みました。

(3) 北九州市自然環境保全ネットワークの会(自然ネット)

自然ネットは本市の自然環境分野の保全・育成・創成・ 利用・整備に貢献することを目的として、あらゆる主体が 集まった組織です。会員同士の情報交換や研修を通じて、 連携の強化と裾野の拡大を図っています。

平成 25 年度は、講演会や緑化運動、絶滅危惧種保全活 動など様々な活動の開催や支援を行い、約2,000人の方々 が参加しました。

5.環境情報の収集・整備・提供

地域の環境特性や環境変化の把握などを行うため、生 活環境、自然環境、快適環境などの環境情報の体系的な整 備とネットワーク化を進め、信頼性のある環境情報が提供 できるよう収集・整備を進めています。また、環境情報の 提供にあたっては、専門的な環境情報をわかりやすく説明 するとともに、インターネット等を活用したタイムリーな 提供に努めています。

(1) 環境に関する年次報告書の作成と公表

毎年、本市の環境の状況、環境の保全に関する施策等 をまとめた報告書「北九州市の環境」(本編・概要版)を 作成しています。本編は、巻末にデータ集として資料編 (CD-R) を添付のうえ、有料(1冊:1,029円)で販売 しており、概要版(50ページ程度)は無料で配布してい ます。また、本編、資料編、概要版の全文をホームページ で公表しているほか、市立図書館でも閲覧できます。





平成 24 年度版

平成 25 年度版

【販売店】

- 井筒屋(北九州市庁舎内)
- 環境ミュージアム
- エコタウンセンター
- ブックセンタークエスト(小倉本店)

(2) ホームページによる情報提供

環境に関する取組については、市ホームページに掲載し ています。地球温暖化対策、ごみ・リサイクル、自然環境、 環境保全、環境国際協力などの主要な取組をはじめ、本市 の環境施策をわかりやすく説明しています。

※北九州市のホームページ

(http://www.city.kitakyushu.lg.jp/) で「環境局」を検 索し、各課の取組をご覧下さい。

(3) 環境測定データの速やかな情報発信

市内で実施している大気、水質などの環境測定データ については、平成 18 年度から、インターネットを活用し て速報値をお知らせしています。

(4) 自然・生き物に関する情報の整備

本市の自然や生物に関する情報を把握するため、自然 環境調査の実施と、調査データの集約化を図っています。

(5) エネルギー情報デスク

省エネルギーや再生可能エネルギーに関する、補助金 制度・融資制度等の情報を集約し、市ホームページ上に掲 載するとともに、制度の利用方法などに関する一元的な窓 口として、情報提供や相談への対応を行っています。

(6) 「分別大事典」の配布

「資源」と「ごみ」の分け方・出し方を知ってもらうため、 一目でごみの分類や出し方が分かる目次兼分別一覧表や、 出し方に迷うものが簡単に調べられる 50 音順の分別早見 表等を掲載した冊子を、区役所等で配布しています。

(英語・中国語・韓国語表記のものも作成しています。)



(7) 環境情報誌「ていたんプレス」(旧かえるプレス) の作成・ 配布

環境に関する情報の提供、環境局の取組、廃棄物行政 の報告(ごみレポート)、地球温暖化防止対策など、本市 の環境行政全般について分かりやすく紹介し、市民の環境 意識の啓発を図る環境情報誌を平成6年から発行してい

平成 26 年 7 月からは、名称を 「かえるプレス」 から 「て いたんプレス」に変更し、環境マスコットキャラクター「て いたん」がナビゲーターとして、環境情報を紹介していま す。また、「『ていたん』のごみ出しワンポイント| コーナー や、「ていたんのエコクイズ」コーナー、「ていたん」と「ブ ラックていたん」による4コマ漫画などを取り入れ、市 民の皆さんに分かりやすくエコを伝えていきます。

- 発行回数/年3回
- 配布先/市内全世帯
- サイズ/タブロイド版 4 頁カラー

平成 25 年度発行の「かえるプレス」(No.43 ~ No.45)



リニューアルした「ていたんプレス」



第4節 国際的な協働・ビジネスの推進

本市は、公害克服の経験やノウハウ、アジア諸都市とネットワークなどを活かして、環境分野の国際協力 を推進し、国内外から高い評価を得ています。一方で、人口増加や経済発展が著しいアジア諸国を中心に、 環境問題や水ビジネスに関する環境ビジネスの市場が拡大しています。今後は、環境国際協力の視点だけで はなく、アジア低炭素化センターを中心に環境技術の輸出を積極的に進め、市内事業者等による環境ビジネ スの機会創出に取り組んでいきます。

1.諸外国との環境協力実績

(1) 都市別実績

ア.大連市(中国)

友好都市である大連市とは、昭和56年に大連市で「公 害管理講座」を開催して以降、人材技術交流を長年に渡っ て行っています。このような地域レベルの環境協力を経 て、本市は ODA (政府開発援助) を活用した大連市の環 境国際協力保全計画(マスタープラン)の策定を提案し、 平成8年に「大連市環境モデル地区整備計画」の開発調 査が採択されました。この開発調査は、自治体レベルの環 境協力が ODA 案件に発展した初めてのケースとして注目 されました。本市からも行政・企業の専門家をのべ67人 派遣し、調査終了後には5件の円借款供与が決定しました。

本市が平成2年に公害克服の実績を評価され受賞した国 連環境計画 (UNEP) の 「グローバル 500」を、平成 13 年に大 連市も受賞し、国際的にもその環境改善が評価されました。

イ. スラバヤ市 (インドネシア)

本市とインドネシア・スラバヤ市は、平成9年のアジ ア環境協力都市ネットワーク構築時から連携を図ってお り、平成14年には、国際協力銀行の支援のもと廃棄物に 関する調査を実施しました。同調査から廃棄物全体の5 割を占める有機ごみにスポットをあて、J-POWER グルー プ株式会社ジェイペック若松環境研究所の高倉弘二氏の 協力を得ながら、平成 16 年より市民参加型の「生ごみの コンポスト化協力事業」を実施しました。当事業によって スラバヤ市の廃棄物量が32%削減されるなど、市民の環 境意識が向上されました。以来両市は着実に友好関係を築 き、平成23年3月に「戦略的環境パートナーシップ共 同声明 の署名、平成24年11月に「環境姉妹都市提携 に関する覚書」を締結しました。

ウ. 西ヌサトゥンガラ州 (インドネシア)

平成25年度より、西ヌサトゥンガラ州マタラム市にお いて、「廃棄物管理業務の効率化事業」を実施し、モデル

地区において、効率的な廃棄物管理システムを構築し、廃 棄物のリサイクル・減量化を進めています。

また、スンバワ島における「ヒマ栽培を核とした農民 生計向上に関する協力事業」では、荒地でも耕作可能なヒ マ栽培技術及び堆肥化技術の指導を行い、ヒマの生産拡大 を図っています。

工. 上海市(中国)

本市と環境ミュージアムが取り組んでいる体験型環境 教育手法などによる環境教育プログラムと、上海市環保局 や科技館などの取組を共有化することで、お互いの環境教 育事業が活性化することを目的とし、平成23年度に、両 市の環境教育担当者が共同企画した環境教育プログラム を上海市の児童を対象に展開しました。

オ. ハントワジャヤ特別市(マレーシア)

マレーシア固形廃棄物管理公社に対し、本市の環境技 術やノウハウを用い、廃棄物管理の効率化に向けた国際協 力事業を行っています。平成25年度は計2回のマレー シアへの専門家派遣で、廃棄物調査の専門家の育成、生ご みの堆肥化、分別・収集・運搬など各事業への助言などを 行いました。



現地指導の様子

(2) 都市間ネットワーク事業

ア.東アジア経済交流推進機構環境部会

平成 16 年に創設された「東アジア経済交流推進機構」 の環境部会を運営しています。会員都市は、日本の北九州市・